



大西 誠 議員

バイオマスの利活用について

問

一・ごみの減量・環境対策に加え、下水処理施設の機能維持の観点からも、BDF製造の取組又は支援してはどうか。
二・地場産業の振興と環境対策の観点から木質ペレットの製造を検討してはどうかと考えるが、見解を問う。

答

中村市長

一・当市では家庭から排出される廃食用油は凝固剤で固めるか、新聞紙や布などにしみ込ませて、燃えるごみとして出している。また婦人会等で住民グループが中心となり、廃油石けんづくりが行われている。今後住民グループと連携するとともに、公共施設からの廃食用油の排出量を調査

するなど、BDF事業の実施について検討していきたい。

なお、民間業者の取組への財政的な援助は難しく、国の補助事業や小型BDF製造装置の紹介などにより、支援をしていきたい。

二・木質ペレットは、チップや製材の廃材、間伐材などを原料にした木質燃料であり、二酸化炭素排出に問題がある化石燃料等の使用量を削減することができるため、環境に優しいエネルギーとして利用が進められている。しかし燃焼施設は高価で使用時期が冬季に限られること等、需要が伸びず販売価格を下げることができないなど課題も多い。

本市の経済を支えてきた製材業は、長引く不況により、厳しい経営環境にあり、活性化の起爆剤として木質ペレットの製造が考えられる。しかし、採算ベースは、年間生産量が約四〇〇ト程度で、ペレット製造等の施設費のみで約一億円程度必要で、国の支援を受けても製造業者には大きな負担となってくる。

重油高を背景に今後農業生産施設等での需要が期待されている。地球温暖化防止の機運が高まりつつある中、環境

対策の面からも、検討していく必要があると認識しているので、今後の検討課題とさせていただきます。



伊予農高のBDF製造装置

ウエルピア伊予の運営について

問

一・四月から三カ月間の管理委託料一億二千三百六十五万円の積算根拠及び備品購入費約一億円の協議内容は
二・七月からの指定管理者への委託に関し、選定方法は
また、日程面を含め問題点はないか。

答

行政改革・政策推進室長

一・運営委託経費の積算につ

いては、一年間の収入を約五億円と見積り、一カ月平均約四千六十万円、三カ月で約一億二千五百万円と積算した。

また、厚生年金事業振興団から提示された備品及び消耗品等は、約三百四十品目で約三千万円、そのうち七年を経過しているものは、無償で伊予市に譲渡するというので、この部分が約千百万円、残り千九百万円については、約二割の金額、約四百万円程度で買ってほしいという振興団の要望であった。再度交渉を行っており、御理解をいただきたい。

なお、乗用車・軽トラック・電話の債権等については、無償で譲渡するとの約束をいただいている。

二・指定管理者の指定に係る手続については、募集要項を三月中に策定し、四月第一週の早い日から公募したいと準備を進めている。その後、約一カ月間の応募期間を設け、五月の連休明けに選定委員会を開催し、応募者からの企画、事業提案を受け、募集要項及び当施設条例をもとに、最も効果的で効率的、また伊予市の公共施設として発展性のある提案があったものを指定管

理者候補として決定する。その後、直ちに臨時会を開催し、五月中旬までには、指定管理者を指定し、約一カ月半の利用者への告知と引き継ぎ及び準備期間の後、七月一日から指定管理者による運営を予定している。

一日でも早く指定管理者を決定し、一日でも多くの準備期間を設けたいと考えているが、今回設定したスケジュールが、ぎりぎりの日程とされているので、御理解いただきたい。



無償譲渡された乗用車と軽トラック

その他の質問事項

- ・教育問題について
- ・市役所前の掲示板について